

## NZGCC: New Zealand Global Competence Certificate

(ニュージーランド・グローバル・コンピテンス・サーティフィケート)

### NZGCCの概要

グローバル化が進む現代、生徒にも社会の変化に対応した資質・能力を育成することが求められています。経済協力開発機構（OECD）は2018年より「生徒の学習到達度調査」（PISA）にて、各国の「グローバル・コンピテンス」を調査しています。PISAではグローバル・コンピテンスを、①地域、グローバルそして異文化の問題を考察すること ②他者の視点と世界観を理解し、その価値を認めること ③異文化の人々とオープンに適切かつ実効性のある意思の疎通を行うこと ④生徒の“well-being”（健やかさ・幸福度）と持続可能な発展のために行動を起こすことと定義しています。

GCCとは、国際教育非営利団体AFS協会が開発した、「グローバル・コンピテンス」を英語で学ぶオンラインプログラムで、自分のペースで学ぶ「動画学習」や、世界各国からの参加者とZOOMで意見交換ができる「ライブセッション」を通じて、主に異文化理解のスキルアップを図る内容となっています。

ニュージーランドは、先住民マオリを含め、多文化共生社会として知られており、また英国エコノミスト誌調査部門が発表する「未来教育指数：Worldwide Educating for the Future Index」において、ニュージーランドの教育制度は3年連続英語圏で1位となっています。2020年、政府留学促進機関であるエデュケーション・ニュージーランドは、AFSと協定を結び、ニュージーランド国立総合大学であるマッセー大学の協力の下、GCCのニュージーランド版NZGCCを中学・高校生向けに共同開発しました。参加者が幅広いスキルを身につけ、新たな友人と出会い、現在各々が置かれている状況を把握し、それを学習の材料に変えることで、レジリエンス（回復する力）を含む感情指数を高める練習の機会を提供します。当プログラムでは、変化し続けるグローバル社会の中で、既成概念にとらわれずに考える力、批判的な思考、質問の答えを自ら探し、見つける能力など、ニュージーランドの教育を体験することができます。こういった背景を踏まえて、エデュケーション・ニュージーランドは、21世紀の課題とされる持続可能性、グローバル化、気候変動などに取り組むことのできるグローバル市民の育成を応援します。

## (NZGCCで習得するスキル)

### 自己認識

- ローカルおよびグローバルな文脈の中で、市民としての個人的・文化的な経験を振り返ることで、文化に対する自己認識を深める。
- 文化的な集団が、どのようにして自分たちの特徴的な感じ方や捉え方、考え方、行動様式を形成してきたかを特定し理解する。

### 他者への共感力

- 異なる文化的背景を持つ人々の行動パターンや価値観を認識し理解する。
- 文化的に異なる人々に共感する。

### 感情知能＝EQ

- 価値判断を保留し、新しい異文化の中で柔軟に対応する。
- 個人の限界を認識し、積極的にサポートを求める。
- 曖昧な状況に対処するための効果的かつ適切な戦略を用いる。

### 他者への架け橋

- グローバルな環境の中で、人間関係を構築する。
- 異なる文脈の中で自分がどれだけ効果的かつ適切に行動したかを振り返る。
- グローバルな学習者のコミュニティの一員となる。

## (プログラムの内容)

18の学習モジュールがあり、ビデオ、クイズ、課題、そして世界中の仲間と交流できるディスカッションフォーラムが用意されています。学習者は、自分のペースで、どこからでも受講することができます。プログラムには、定期的なライブのグループセッションも含まれています。このセッションでは、研修を受けた指導者によるサポートのもと、参加者が他の学習仲間と出会い、つながり、協力し合いながら、モジュールで学んだことを解き明かします。ライブセッションは、自分の洞察を振り返り、共有し、グループ活動を行う機会を提供します。

### プログラムのスケジュール：

#### 第1週

これから始まる学習が楽しみになるよう準備をする内容になっています。

#### モジュール1

##### Welcome -ウェルカム

この入門モジュールでは、コースと学習管理システムについて学びます。参加者同士で自己紹介をし、他のメンバーと出会う機会があります

##### プログラム事前調査

PISAの基準に基づいた簡単な事前評価で、参加者がグローバルコンピタンス（グローバル能力）のどの段階にいるかを把握します。

## モジュール2

### Roadmap -ロードマップ

このモジュールは、学習者がどこへ向かうのかを示し、プログラムの方法や利点を理解してもらうためのものです。

### ライブセッション

参加者同士の交流とコースの紹介を目的としたキックオフセッションです。

## 第2週

自己認識に向けてスタートします。

### モジュール3

#### Metaphors of Culture (文化のメタファー)

文化とは一体何なのか、自分がどのような文化に属していると感じているか。これらの質問に答えることが、異文化を理解し交流するためのカギとなります。

### モジュール4

#### Who am I? (私は誰?)

このモジュールでは、自分の属する多くのアイデンティティについて考え、それらがどのようにして自分自身を形成してきたかを考えます。

### モジュール5

#### Stereotypes and Generalizations (ステレオタイプと一般化)

私たちは皆、他人のことを推測します。どうすれば情報に基づいた一般化を行い、ステレオタイプ化していないことを確認できるかを学びます。

### モジュール6

#### Check-in (チェックイン)

このモジュールでは、コンフォートゾーン、パニックゾーン、ラーニングゾーンについて学びます。新型コロナウイルスの混乱の中で、初期の感情を探り、自分の感情を処理し始める場でもあります。(より深く掘り下げたオプションモジュールでサポートします。)

### ライブセッション

指導者は、これまでのモジュールで学んだことを解き明かすためのサポートを行います。その際、コミュニティやつながりを築くこと、自分たちの文化や創造性についての洞察を共有することに重点を置きます。

## 第3週

文化に対する理解を深め、異なるグループや文化的状況に適用できるように設計されています。

## モジュール7

### Cultural Value dimensions（文化的価値の次元）

このモジュールでは、文化の一般化がどのように違いを理解するのに役立つかを探ります。

## モジュール8

### Communication Styles（コミュニケーションのスタイル）

ここでは、文化の違いによる誤解や聞き違いを理解するために、好まれるコミュニケーションのスタイルを探ります。

## モジュール9

### Empathy and Listening（共感と傾聴）

このモジュールでは、異なる現実を知り、違いを理解して橋渡しできるようになるためのツールとして、「共感」について学びます。

## モジュール10

### Practicing Curiosity（好奇心の実践）

このモジュールでは、これまでに学んだことを応用して、自分のコミュニティの3人にインタビュー演習を行います。

## ライブセッション

これまでのモジュールで学んだことを解き明かすのをサポートします。特に、学習体験の中で遭遇したさまざまなコミュニケーションスタイルや価値観について議論し、課題から得られた学びを共有することに重点を置きます。

## 第4週

文化的なニュアンスへの理解を深め、文化的な状況で効果的かつ適切に行動するために、自分の行動を修正できるようになることを目的としています。

## モジュール11

### Coping and Resilience（対処と回復）

このモジュールでは、違いに対処し、異なる価値観の間に橋を架けようとするのがいかに難しいかを考え、さまざまな対処法やセルフケアの戦略について学びます。

## モジュール12

### Suspending Judgement（価値判断の保留）

ここでは、判断を保留することができるように、コミュニティでの状況や出来事を分析するための DIVE ツールを調べ検討します。

## モジュール13

### More Cultural Values（その他の文化的価値）

このモジュールでは、さらにいくつかの文化的価値観をご紹介します。

## モジュール 14

### Conflict Styles (対立の形)

ここでは、「対立」そのものが文化によってどのように異なるかを見ていきます。

#### ライブセッション

指導者のサポートを受けながら、これまでのモジュールで学んだことを解き明かします。その際、対処法を共有したり、異なる対立スタイルの長所を理解、評価、見直して視点を変えたりすることに重点を置きます。

## 第5週

権力と不平等に関連した文化についての理解を深め、自分自身について内省して前向きな行動を起こすための道筋とツールを提供することを目的としています。

## モジュール 15

### Understanding Inequality (不平等の理解)

このモジュールでは、社会の違いを見る際に不平等を理解することの重要性を紹介します。主流と末端の概念を探求し、それを自分の身の回りのことに適用します。

## モジュール 16

### Microaggressions (マイクロアグレッション)

ここでは、既成概念がどのようにマイクロアグレッションにつながるのか、自分の偏見をどのように認識するかを学びます。

## モジュール 17

### Taking Action (行動する)

このモジュールでは、GCC で習得した学習内容を復習し、地域社会やグローバルコミュニティに貢献するために使用できる新しいレンズとしてのグローバルコンピタンスについて説明します。

#### ライブセッション

これまでのモジュールで学んだこと活かし、どのようにして多様性を尊重する生活を送ることができるか、また、グローバルコンピタンスを実践するために、大小を問わずどのような行動を取ることができるかに重点を置いて、参加者が理解できるようにサポートします。また、本プログラムで得た重要なポイントを振り返る場も設けられます。

#### プログラム後の調査

PISA の基準に基づいた簡単な評価を行い、プログラムの結果、参加者がグローバルコンピタンスの向上に成功したかどうかを把握します。

## モジュール 18

### Making Sense of the Experience (体験の振り返りと把握)

参加者は主な成果について語り、簡潔にプログラムの評価を行います。